

「令和 5 年度 東京医療保健大学 点検・評価報告書」における教育研究活動等
の取組状況及び課題等に関する外部評価委員会からのご意見等について

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
【今村委員】 1. 【計画 10-3】（11 頁）アドバイザー制度は大変効果的な取組です。一方で、アドバイザーとの相性が悪い場合、有効に機能しない可能性が考えられます。複数の相談窓口を用意されてはいかがでしょうか。 2. 【計画 14-6】（24 頁）広報イベントは土日祝日開催が多く多大な労力がかかる中、全参加者数が 1,520 名に達していることは大変素晴らしいです。教職員の労務管理にもご留意ください。	【医療保健学部看護学科 回答】 アドバイザー教員は 1 グループに 4 名おります。また、学生には「看護学科の先生であれば、だれに相談してもよい。相談する先が分からない際にはアドバイザー教員が窓口になるので、アドバイザー教員に連絡をしてほしい」と伝えております。そのため、固定の教員に相談しなければいけない状況ではなく、学生が話しやすい教員に相談できる環境を整えております。 また、教員だけでなく、相談室（心理カウンセラー）、保健室（看護師）、事務部などの連絡先も伝え、教員に話したくない内容も相談できる環境を整えております。 【立川看護学部看護学科 回答】 広報イベント開催に際して、本学部は、教職員はもとより学生の積極的な参画を得て、学部全体で一体的に取り組む体制が整っております。これは、教職員と学生と距離が近い、学部のアットホームな雰囲気等これまで築かれてきた組織文化によるところであり、この組織文化が来校者や地域に伝わっているものと考えております。ねぎらいとお褒めの言葉を賜ったことに感謝申し上げます。併せて、教職員にしっかりと伝えてまいります。 広報イベントは、担当者配置を含む年間計画を企画立案し、それにより事前準備から終了までの計画に必要な改善を加えつつきちんと確認しながら、時間内に終えることのできる業務量で進めております。また、都度、業務内容の整理と評価を行い、委員会で検討後、教授会で確認するといった PDCA サイクルで

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
3. 【計画 17-5】(37 頁) 科研費獲得にはテクニックも重要です。ロバストジャパン等、外部機関の支援も有効かもしれません。 4. 【計画 25-2】(49 頁) 科研費以外の外部資金獲得のため、自治体主催の入札に参加することは大変評価できます。今後も積極的な取組を期待しております。 5. 【計画 29】(55 頁) 看護学部には、明確な目的を持たず入学する学生が一定数存在します。その結果、ミスマッチや能力不足により、一定数の学生が退学することになります。大切なのは早期発見であり、早めに方向転換を勧めるのも適切な対応かもしれません。	取り組んでおります。これらの全体的な管理の中で労務管理面を考慮しており、代休取得や時間外勤務の可否などを確認し周知を行っております。今後もイベントの全体的内容と労務管理のバランスを念頭に置き、より良い活動を引き続き行っていけるよう取り組んでまいりたいと考えております。 【医療保健学研究科 回答】 科研費獲得のため外部講師を招聘しての研修会の開催に加えて、具体的な研究計画書の記載のし方、事前の相談窓口などの個別支援として「研究計画調書」の添削支援などの検討もしていきたいと思っております。 【研究協力部 回答】 毎年開催している「科研費説明会」では科研費制度の最新情報や採択されやすいテクニックなども盛り込まれておりますが、今後は申請書の添削支援など外部機関による個別支援等の検討も行なってまいります。 【総合研究所 回答】 ご評価ありがとうございます。まだ成果が出ておりませんが、まずは応募数を増やすように努めてまいります。 【入試事務部 回答】 入学後のミスマッチをできるだけ少なくするため、オープンキャンパスや入試説明会及び高校での出張講義の際に、学部学科の特徴や学びの内容、キャンパスごとの特色を踏まえた将来目指すべき進路について、参加者全員に、また、個別に丁寧に説明をしています。また、資格取得を目指す看護師という職業は高い専門性と責任が伴う職業であることを自覚し、覚悟と強い意識をもって志望していただけるよう、その説明に努めています。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
6. 【計画 45】（74 頁）大学の発展には事務組織の強化も重要です。専門知識を有した職員育成のためにも、積極的に SD にも取り組まれることを期待いたします。 7. 【計画 45】（74 頁）証明書学外発行は大変素晴らしい取組です。一方、個人情報の流出にはご注意ください。	専願として早い時期から募集を開始し、自己推薦書や小論文、面接により評価を行う総合型選抜、学校推薦型選抜ではミスマッチは起こりにくいのですが、現行の一般選抜のように他大学との併願を可能とし、学力検査のみで評価を行う選抜においては、多様な受験生が受験をするため、ミスマッチが起きる可能性は否定できません。 そのため、令和 7 年度入試では、全学で一般選抜特別日程を展開し、記述式による学力検査に加え面接による選抜方式を実施することにより、本学で学ぶことを強く希望する意欲のある学生を選抜したいと考えています。 【学長戦略本部 回答】 これまでも「東京医療保健大学を語る会」を通じて教職協働による FD/SD を進めており、SD については事務職員研修会を開催しておりました。このほか、目的別に教員と教務系事務職員の双方を対象とした「DX 推進事例勉強会」等を開催していますが、多くの分野で展開できるよう充実を図ってまいります。 【計画 45】では、単に事務 DX を推進するだけでなく、事務的処理に投入されてきた職員のリソースを大学価値創出にシフトさせ大学の競争力を高めることが必要であり、そのためにも職員の SD 活動の充実が不可欠となっていますので、私立大学協会等が主催する学外での研修にも可能な限り参加し、職員の能力向上に努めてまいります。 【学長戦略本部 回答】 証明書学外発行の取組については、学生・卒業者の利便性の向上の観点のほか、教職員の事務負担軽減や、窓口での現金収受を廃止することで現金紛失等のリスク削減のために実施しています。更にこのような観点から事務 DX を推進してまいります。なお、証明書学外発行システムは、セキュアなクラウド環境に

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
8. 【計画 75】(103 頁) 完全な情報セキュリティ体制構築が理想ですが、容易ではありません。 重要なのは、不測の事態が発生した際に「〇〇〇の研修を実施し・・・」等の説明責任を果たすことができることです。 そのためにも、まずは研修会参加率 100%を達成されるよう引き続きご努力ください。 9. 【計画 3】(4 頁) 2005 年開学時に入学した第一期生は 2024 年現在で 37 歳に達し、一定の要職に就き始める年齢です。卒業後の追跡調査は大変ですが、入試方法に還元するなど、更なる IR の取組をご検討ください。	データを格納し各コンビニエンスストアで発行する仕組みです。サービス利用時には、本人申請情報と学籍情報がマッチした場合にのみ発行するため、なりすまし等による個人情報の流出もございません。 ご指摘のようにサービスの拡大に伴いリスクも大きくなりますので、個人情報保護委員会や情報セキュリティ委員会とも連携して、教職員のリテラシー向上に努めてまいります。 【総務人事部 回答】 令和 6 年度は常勤教職員（約 350 名）に対して現時点で情報セキュリティ・コンテンツを毎月 2 回、計 10 回配信しておりますが、閲覧率（参加率）92%という浸透状況です。組織においては、たった一人の不注意が、ウイルスへの感染や情報漏洩といった脅威につながるため、今後も情報セキュリティ・リテラシー向上実現に向けて継続推進してまいります。 【学生支援センター 回答】 ご指摘いただきましたように、本学も卒業生の追跡調査は、経営課題の一つと考えています。卒業生との密なコンタクトポイントを増やすことができれば、学び直しなどの新たなビジネスチャンスの創出や就活支援でも活用が期待できます。また、卒業生の追跡調査は、大学の教育効果測定にとっても不可欠な情報です。しかし、本学も卒業生アンケートや同窓会総会など、卒業生とのコンタクトを継続して行っておりますが、約 6000 人の卒業生に対して、約 2000 人の所在が全く掴めていないという課題を抱えております。 原因としては、昨今、人手不足により労働市場はますます逼迫し、労働市場が流動化（転職市場が活況）する中、①転職や引っ越しの情報を更新するのが面倒、②卒業後の関係性が希薄、③変更を届け出るメリットがない、ことなどが

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
10. (大学基礎データ表 5) 学士課程の専任教員年齢構成について、定年が 65 歳にもかかわらず、70 歳以上が数名存在し、30 歳台が少ない学部が見受けられます。 今後さらに人材確保が難しくなることが予想されますので、早めのご対応を推奨いたします。 11. (大学基礎データ表 1) 専任教員数と非常勤教員数の比率について、医療保健学部以外は非常勤教員割合が 60%を超過しています。教育の質向上のためにも、更なる専任教員確保をご検討ください。 12. (大学基礎データ表 10) 私立学校振興共済事業団（令和 5 年 12 月公表）によると、収入における学生生徒納付金比率平均は 76.3%、支出における人件費比率平均は 51.9%とされています。学部により一概には言えませんが、さらなる経営基盤安定のためにも、より一層のご努力を期待いたします。	考えられます。従って、9 月以降、事務局本部の組織を改正いたしますが、同窓会との連携強化、ホームカミングデイの活性化、卒業生向け学び直し講座の創設、変更手続きのオンライン化、卒業生向けプラットフォームの検討など卒業生との関係強化策を学生支援部門として検討して参ります。 【総務人事部 回答】 これまでも退職補充は下位の職位で年齢が若返るよう留意しており、世代交代を意識した採用運営をより一層心掛けてまいります。喫緊の課題である人件費の削減にも寄与することからの、ご指摘のような観点に留意してまいります。 【総務人事部 回答】 令和 6 年度から導入した基幹教員制度をうまく活用し、教育の質向上に資するよう、いわゆる専任教員相当の教員に講義の持ちコマを増やしてもらうよう取り組んで参りたいと存じます。 【経理財務部 回答】 ご記載の平均値は大学全体と思われますが、因みに保健系学部 47 校平均値は前者が 78.2%（+1.9%）、後者が 54.7%（+2.8%）と全体値より若干高くなるものと認識しています。 これに対しまして、当学の令和 6 年 3 月期の値は、前者が 80.3%、後者が 56.1%。それでも保健系学部平均値より、それぞれ+2.1%、+1.4%と高い値となっており、ご意見頂戴した通り、前者については学納金以外の収入拡大、後者は人件費の引下げについて、努力すべきものと考えております。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
13. 2023 年公表の地域別推計人口（社人研）によると、千葉県は 20～24 歳人口は 2025 年から 2050 年で 25%減少、和歌山県は 41%減少することが予想されています。加えて、団塊の世代が寿命を迎える 2040 年以降の入院患者数は急速に減少することが想定されます。需給均衡が遅いとされている看護師においても影響は不可避です。中長期計画の立案をご検討ください。	【企画部 回答】 入学者数が比較的安定している各看護学科においても、プレイスメントテストの結果では、入学した学生の学力水準が年々低下傾向にあることから、大学本部では優秀な学生を一定数確保するための入試の在り方について、また、各学科においては学生一人一人の学力向上を図るための更なる方策について、学長から検討の指示を発出したところです。 その上で、将来的な看護学科の在り方等についても、令和9年度を初年度とする次期中期目標・計画に向けて今後検討していく必要があると認識いたしました。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
【高戸委員】 1. 令和5年度計画に基づく令和5年度各学科の計画達成状況に関しては、大変綿密で内容の濃い計画に対して、それぞれ満足すべき成果が上がっており高く評価します。前年度指摘の未達成の部分への対応も示されており、また前年度よりはシンプルな構成となっており改善が認められます。 2. 各研究科の取組についても引き続き内容が非常に充実しており、高く評価できます。昨年度指摘した、大学院で学ぶことによるキャリアパスが示されつつあり、学生が自ら主体的に進路を選択できるような指南がみられます。一方で、本来は学生の教学が最重要ですが、大学教官としての研究面での発展に関しては引き続き期待したいです。研究面では、少子高齢化、グローバル化に伴って時代の変化に伴い、新たに必要となってきた看護に注力して欲しいと思います。	【企画部 回答】 第3期中期目標・計画では、評価の負担軽減を図りつつも、KPIに基づき簡潔かつ明確に評価できるよう心がけております。 【大学院医療保健学研究科 回答】 大学院で学ぶことによるキャリアパスの提示を通して、学生が自ら主体的に進路を選択できるように指導していくことは継続して参ります。一方で、本来は学生の教学が最重要ですが、大学教官としての研究面での発展に関しては、科学研究費や研究助成金の確保、学会発表（国内外）、論文投稿など、引き続き努力して参ります。少子高齢化では、母子の支援として産後ケア研究センターが設置されていることから、大学院院生とともに研究を実施していること、グローバル化に伴って時代の変化に伴い、新たに必要となってきた看護に注力することに関しては、看護学科に国際看護の充実化、大学院でも海外での学会発表など、推進して参ります。 【大学院看護学研究科 回答】 看護学研究科におきましては、高戸先生のご指摘のように常に同校舎内で80人の大学院生が学んでおり、時には学部生のティーチングアシスタントを実施し、年齢の近いナースや助産師が近くで直接指導したり、話をすることもあります。また、文献検索や研究的取組を実際に行っている状況を見て、教員の姿とともに院生の後姿の影響を受けて4年間育っています。本学での学部生は、自分達のキャリアを視野に入れ将来のモデルとしての姿を見て学んでいます。卒業研究の中では実習場の問題点や課題、少子高齢化、グローバル化に関する

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
	課題についての追及を研究的に取り組むことを実践し、主として学生が主体的に考え、行動でき、社会に貢献できることを期待して学んでいるので、支援したいと常に考えています。 【大学院和歌山看護学研究科 回答】 引き続き、認定看護管理者の受験資格を取得するための学生が複数継続して学んでいます。和歌山では少子高齢者が全国に先んじて進行しており、医療の偏在、訪問看護ステーションは高齢者千人あたりの数は全国平均より多く（全国0.39：和歌山0.65）ケアの質の保証が課題です。外国人介護人材も増加しています。この現状を課題として研究に取り組んでいる大学院生（外国人看護師含む）もおります。さらに、研究科において、この状況に対応できる人材養成の検討を始めています。 【大学院千葉看護学研究科 回答】 千葉看護学研究科では、修了後の高度専門職業人としての姿（「コミュニティでのケア推進」「臨床課題の解決推進」「看護学生・現任教育機能推進」「組織での看護管理機能維新」）に沿った4つの履修モデルを紹介し、1年次前期必修の「看護機能推進特論」や8月に決定する「特別研究」の研究指導教員のもと、学生の主体的な進路選択を支援している。研究面では、先述の必須科目で、地域包括ケアを俯瞰した後に、研究課題の焦点化を図るプログラムとしていることから、少子・高齢化に対応した看護に取り組む場合も多い。グローバル化への注目は、1年次後期の必須科目「ヘルスグローカリゼーション」で取り上げているが、研究課題への反映は今一つであるため、当該科目を必修とした背景を前期のうちに知らせるといった工夫をしていきたい。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
3. 前年度課題として指摘した、ダイバーシティーに関して、大学をあげての取組を試みようとしている点は評価できます。その上で、今後は産学官連携などを通じた社会的な使命に対する具体的な方策を示していくことが課題と考えます。特に、大学としてどのような使命があり、どのような社会貢献をしようとしているのかを網羅的に示すだけでなく、端的にわかりやすく示していくことも説明責任を果たす上で重要です。これにより、学生や職員が大学に所属している誇りをより生むような仕掛けとなることを期待します。大学規模の大きさのメリットを活用して、企業との共同研究などにも力を注ぎ将来は産官学プロジェクトなども立ち上げることも期待します。全体的に、内容は非常に充実していますが、すべての学生が付いていけるように細かい配慮をお願いしたいです。グローバル人材育成に関しても最近では、各言語の翻訳機も利用できるため、多角的な方向から全員が参加できるようにしていただきたいです。また、看護師になった後の美容医療転職を含む離職率の増加に対して何らかの対策を考えて欲しいと思います。 看護師職の魅力に関して、さらなる教育をお願いしたいと思います。また、NHK 教育テレビ E テレの『働く細胞』という番組を見る機会があり、幼小児が免疫細胞や免疫機構を大変良く理解しているのに驚愕しましたが、アニメを含む分かりやすい教材も、予想以上に役立つことを感じます。多数の分かりやすい、目で見る教材などを積極的に用いて欲しいです。幼稚園児が免疫細胞に関して理解し、正しく会話していることに驚きました。	【企画部 回答】 ・平成29年10月に策定した「東京医療保健大学ビジョン」において、例えば、「6. 多文化が共存する大学・キャンパス創りを進める」こととして、ダイバーシティーの観点で取り組んでいます。また、「5. 地域社会との共生が推進できるよう、医療・保健・福祉分野における地域支援・協働の中核となり、積極的に社会に貢献する」こととして、地域に密着した社会貢献活動を通じ、地域の発展、課題解決に寄与することとしています。 ・企業との連携については、本学は必ずしも多くはありませんが、学長戦略本部の「総合研究所」を中心に、共同研究として「(株)森永乳業」、受託研究として「(株)マンダム」のほか、「(株)ケアコム」とのデジタル教材を活用した食育の展開事業、「(株)京急サービス」との各種イベントや新規事業への参画や、新たに五反田駅西側にある「(株)学研」との教材等の出版事業や各種分野にわたる連携の可能性について検討を始めているところです。 ・グローバル人材の養成については、医療保健学部看護学科において、令和6年度からの看護学科独自プログラム「グローバル看護人材育成プログラム—調和のとれた社会に向けて—」を開始したところであり、この取組を踏まえ、全学的なグローバル人材養成の検討を進めてまいります。 ・卒業生の看護師の離職状況については、必ずしも正確に把握できていませんが、大学としては看護師職の魅力や使命感等の涵養を図るため、授業の内外で指導してまいります。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
4. 令和5年度の計画及び結果達成に関しては問題ありません。 一方、昨年度と同様ですが、引き続き長期的な観点からの揺るがない貴学の目指すところを『理念』として高所大所から分かりやすく発信して欲しいと思います。 貴学の使命（ミッション）を明確に謳い、どのような大学・成果を目指すのかという将来像（ビジョン）を明確化することが常に大切です。 貴学の高邁な理念を大学全体に広く浸透させて、大学が一丸となって進むことを期待します。今後は、認知症や新たな感染症対策、高齢者対策など、医療の幅はますます拡大しています。再生医療を始めとする新しい医療や研究の発展も著しく、幅広い領域に対応できる教育、研究をお願いしたいと思います。	【企画部 回答】 ・ 本学の建学の精神及び教育理念・目的並びに大学ビジョン等を実現するため、第3期中期・目標計画を策定し現在【計画1】として実行しているところです。 ・ 大学・学部・研究科等の理念・目的については、学則、履修案内等に明記した上で構成員に対し説明するとともに、本学のホームページ等を活用し、大学構成員及び広く社会にも公表しています。また、学生に対しては、新入生及び各学年のガイダンスの実施や、教職員に対しては、全学及び各キャンパスでの教職員オリエンテーションを実施しています。特に「新入生合同研修会」においては、学長講話の中で説明いただいています。 ・ 各キャンパスには、デジタルサイネージを設置しており、学生に関する各種情報提供のほか、大学の校歌や大学ビジョンが流れるなど、建学の精神や大学の理念及び大学ビジョンの周知や涵養等を図っています。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
【盛田委員】 1. 【計画 10-2】（10 頁）グローバル人材に対する学生の関心が高まっていることは好ましく思います。 ①外国人模擬患者育成はどのようにされていますか？ ②レニック先生に代わる教育機会創出に関する今後の見通しをお聞かせください。	【医療保健学部看護学科 回答】 学生の関心の高まりについて、肯定的に評価くださり、ありがとうございます。下記に回答をさせていただきます。 ①外国人模擬患者対象者に対する事前準備としては、下記の 2 点を行っています。i) 事前打ち合わせ；プログラムの目的・進行・模擬患者の役割の説明と想定シナリオの共有、ii) 当日の説明；参加学生のレディネス・演習中の質問や対応に困った際の対処方法の説明。 今までは外国人患者の安定的な確保が課題でした。しかし、2 年前より近隣の日本語学校より昨年度より協力いただけるようになっております。 これからは、模擬患者育成について検討することが課題と考えております。 ②レニック先生のご異動による教育機会の創出について、ご質問をありがとうございます。昨年度より、NTT 東日本関東病院国際診療科と連携し、職員向け英会話教室に学生も参加させていただけることとなりました。 この英会話教室は臨床で必要な実践的英会話の修得を目的に、同院国際室の通訳担当職員が企画・開催しています（月 2～3 回）。ネイティブを含む医療通訳が講師を務め、2024 年 2 月より学生が延べ 16 名参加しております。 学内広報誌で紹介したところ、看護学科以外の医療保健学部医療栄養学科の学生からも希望があり参加しております。参加した学生の満足度は高いと感じております。あいにく、5 限目の授業と重なることも多いのですが、学生の継続参加を促していきたいと考えております。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
2. 【計画 10-3】（11 頁）障がい学生支援制度の周知率が低い印象を持ちます。支援制度を利用している学生は存在していますか？学年を跨いだ学生間交流は年間を通して行われていますか？ 3. 【計画 11-6】（16 頁）FD 研修会開催は年に 1 回のみですか？もしそうであるとするとその参加率が 75%は低いと思いますので、100%を目指して努力してください。職位別職階別の FD 企画は実施されていますか？	【医療保健学部看護学科 回答】 ・昨年度のアンケート結果を踏まえ、今年度のガイダンスでは昨年度よりも時間をかけて丁寧に障がい学生支援制度の説明を行いました。今年度のアンケートでは、「本学には、障がい学生支援制度があることがわかった」に対して 84%の学生が「はい」と回答しております（昨年度 69%）。支援制度の具体的利用者数についての公表は差し控えますが、利用している学生は複数名おります。 ・学生間交流については、医愛祭やサークル活動等を通じた交流をはじめ、新入生に行われる入学時ガイダンスの際、また入学後の「学び方支援プログラム」で複数回・複数名の上級生に参加してもらい、新入生からの質問に答えてもらっております。上級生から新入生へアドバイスももらう等、縦のつながりの機会を設けております。 【医療保健学部医療栄養学科 回答】 医療栄養学科が開催している FD 研修会は年に 1 回です。参加者の認定は、単なる出席ではなく、FD 研修会後のアンケートへの回答を以って行っています。今回、アンケート未回答教員が多く、参加率が低かったものと思われます。FD 研修会についての事前案内を複数行い、参加者を募ること、事後アンケートの依頼を強化し、回答率を高めること、録画配信を検討することで FD 研修会参加率 100%を目指します。また、職位別職階別の FD は企画しておりません。昨今、教育 DX が進んでいますので、こちらにつきましては、インターネット上で利用できるプログラムを、職位別職階別に適宜紹介する仕組みを模索中です。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
4. 【計画 11-7】(16 頁) 国語は全てに重要ですので「実用国語」の開設に期待します。入学試験で国語力は評価されていますか？ 5. 【計画 12-1】(17 頁) 定員充足率向上は急務であると思いますが、他方、定員見直しの議論はありますか？	【医療保健学部医療栄養学科 回答】 学校推薦型選抜と総合型選抜では、小論文試験や課題探求型レポートなどにより間接的に国語力の評価を行っています。これらの間接的な方法により、「知識・理解力」、「思考・判断力」、「表現力」を評価します。「知識・理解力」及び「表現力」では、大学での学修に必要な知識・理解力があり、設問の意図と内容を正確に理解し、自分の考えを述べる力があるかどうかを見ています。また、「思考・判断力」は、物事に対する客観的な判断ができ、分析、構成し、自分の考えを論理的に展開する力があるかどうかを見えています。 一方、一般選抜入試では、国語は選択科目のため、受験者全員を評価している訳ではありません。 【企画部 回答】 ・医療保健学部の医療栄養学科と医療情報学科の定員未充足への対応として、令和 6 年 4 月から、医療栄養学科内に「管理栄養学専攻」と新たに「臨床検査学専攻」を設置したところ、入学定員 100 名に対し、管理栄養学専攻 66 名、臨床検査学専攻 14 名、合計 80 名の入学者となり、前年度 54 名の入学者からは回復傾向が見受けられますが、医療情報学科は入学定員 80 名のところ、33 名の入学者に留まっています。 ・医療情報学科の改組だけでなく、医療保健学部全体の改革が必要であるとの考えから、令和 8 年 4 月からは、医療保健学部全体の入学定員 280 名は変更することなく、 ①医療栄養学科と医療情報学科を 1 つの学科に統合し、従来の医療情報学科を「医療情報学専攻」とするほか、新たに臨床工学技士を養成する「臨床工学専攻」を設置することで、4 専攻の学科からなる入学定員 160 名の「医療保健学科」(入学定員は 20 名減)を新たに設置すること、

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
6. 【計画 12-2】（17 頁）既卒者への学修支援の費用負担について教えてください。 7. 【計画 12-3】（17 頁）英語論文の一層の公表に向けての施策、例えば支援体制はありますか？URA や投稿費用補助制度などは存在していますか？ 8. 【計画 13-1】（18 頁） ①取り入れていらっしゃるアクティブラーニング手法はどのようなものですか？ ②教員間でのピアレビューや質向上のための FD は実施されていますか？	②看護学科については、入学者の確保が順調なことから、医療保健学科の入学定員 20 名減分を加えて、入学定員 120 名の看護学科とすること、として、現在学内に設置準備チームを設置し、鋭意作業を進めているところです。 ・また、和歌山看護学部では、地域の入学ニーズを勘案し、令和 7 年 4 月からは、現在の入学定員 90 名を 100 名に増員するための認可申請を行い 8 月末に設置認可されました。 【医療保健学部医療情報学科 回答】 現在、学修支援の実績のある企業の場合、企業側の資格取得支援のスキームで行なわれているため、既卒者の費用は企業側の負担になっています。 【医療保健学部医療情報学科 回答】 URA については配置しておりません。投稿費用については、特に研究資金の比較的少ない若手教員を中心に、学科特別研究費からの補助を弾力的に実施しております。また、新任の若手教員については 3 年ほどのメンター制度を設けて、補助金の獲得支援、研究環境・フィールドの支援、研究発表・論文作成の支援等を行っております。 【東が丘看護学部看護学科 回答】 ① 令和 5 年度の場合は、(1) 発見学習、(2) 課題解決学習、(3) 体験学習 シミュレーション、(4) ロールプレー、(5) 調査学習、(6) グループワーク、(7) ディスカッション、(8) ディベート、(9) プレゼンテーション、(10) 大福帳/ミニット等手法で、実施結果を調査した所、非常勤講師も含めて全科目で 75%となっており、内部の教員の場合は 90%以上展開しています。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
9. 【計画 14-4】（22 頁）実習施設教育担当者に対する FD は実施されていますか？到達目標の周知、評価の標準化などには困難が伴うと思いますが、どのような工夫をされていらっしゃるでしょうか、お教えてください。	多い手法は(6)グループワーク、(7)ディスカッション、(2)課題解決学習、(3)体験学習シミュレーションです。 ② 領域毎にピアレビューや情報交換等は常にオープンで実施しています。FD 活動については定期的に FD マップに添って職位毎や全体毎に計画的に実施しており、実施後は必ず評価して各自の FD マップにも記載しています。今年度から FD マップの電子化を進めている状況です。 【立川看護学部看護学科 回答】 実習施設の管理者並びに指導者の方々には、実習施設も講義や実習で協働頂くところにおいて教員と共に教学マネジメント PDCA の一翼を担う立場である旨のご理解をお願いしております。 具体的には、年度初めに実習全施設説明会の実施、大学の 3P とカリキュラムについての説明、社会から学士課程に求められていることの説明、学修者本位の教育を推し進めるにあたり教学マネジメントと本学部の取組の実際などについて説明し、理解を得るための取組を行い、また、指導者連携会議やワーキング、実習毎の評価会、共同研究を通した指導者と教員が教学マネジメント取組の目的と実践を共有し理解を深めております。さらに、看護技術到達ポートフォリオや実習記録の ICT 化にともない、学修成果を可視化したことによって、施設側にとっての理解が深まったとのご意見を頂いています。FD はこれらの取組の連続であると位置づけており、実習評価の標準化に向けても前向きに取り組んでおります。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
10. 【計画 14-6】（24 頁）活発な広報活動を行い大変なご苦勞であろうと思います。出張講座の実施は受験生獲得に繋がっていますか？	【立川看護学部看護学科 回答】 出張講座から直接実際に受験につながったと明示的になったケースは、現在のところ承知しておりませんが、継続して入学頂く高校はもとより、姉妹や従妹が続けて入学頂くケース、実習施設の職員の子弟が受験・入学されるケースがあります。 オープンキャンパスやその他広報活動により、本学部の存在が周知されているものと強く実感しており、出張講座の実施は、多様な広報活動の一環であること、また、地域から求められる本学部と地域のつながりの一つであることを念頭に置いた取組と考えております。 参考事例になりますが、高校生自身が「立川看護学部では災害の勉強ができる」と聞いたので、自分の高校卒業課題のテーマでもあるトリアージについて教えてください」と直接連絡し、個別に交渉して来た学生がおりました。大変頼もしいと感心すると同時に、高校や地域の学習活動に貢献する学部としてさらに努力してまいりたいと考えております。
11. 【計画 15-2】（27 頁）教員間でのグッドプラクティス事例の共有などはなされていますか？	【千葉看護学部看護学科 回答】 学生主体の教育における多様性への対応としては、点検・評価報告に記載した通り、若手教員の FD ならびに FD 研修会を実施し、学生の多様性を理解する情報共有は実施しているが、グッドプラクティス事例の共有はしていないので、今後の FD 方略として検討していきたい。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
12. 【計画 15-4】(28 頁) 入力した学生数を把握する方法は検討中ですか？ 13. 【計画 15-6】(31 頁) 教員の研究力の評価指標に「競争的資金の獲得件数、額」を含めるお考えはお持ちでしょうか？ 14. 和歌山看護学部看護学科の評価指標について、具体的な数字を入れた方が良いです。	【千葉看護学部看護学科 回答】 LMS のシステム上、入力した人数を教員が把握できないことについては、LMS を整備している学修基盤推進室や全学教務委員会に要望することや、代替する方法を検討していきたい。 【千葉看護学部看護学科 回答】 教員の研究力については、年度末に、国内外での学会発表、論文公表数などの報告を求め集計している。この中には、「競争的資金」の獲得状況も含まれている。また、毎年行う教員評価において、「競争的資金の獲得件数、額」を含めて、研究活動の実績の報告をもとめ、領域責任者が確認の上、学部長が総合評価しているので、すでに含まれていると考えている。 【和歌山看護学部看護学科 回答】 【計画 9】(8 頁) 評価指標 研修計画 年 2 回以上 大学院入学生 定員 (12 名) 評価の追加 ・「臨床実践を科学的に意味づける/文献検索の意義と方法を知ろう―」・第 1 回 (7/15) ～第 4 回 (10/21)、参加者 9 名 (全て参加を前提に募集)。 ・就職前基礎看護技術のトレーニング 1 日目 (3/26) 18 名、2 日目 (3/27) 19 名、見学された施設管理者 4 名。 ・大学院入試説明会：第 1 回 (6/24) 5 名 (病院等 3 名、学部生 2 名)、第 2 回 (12/9) 10 名 (病院等 3 名、現院生 1 名・学部生 4 名、ZOOM2 名)。 【計画 16 - 1】(32 頁) 評価指標 ・愛着形成 自由記述から抽出

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等																																				
	・ 国家試験対策講座・模擬試験受験 学生 100%参加 目標シート webclass に搭載しての活用 100% ・ 図書館入館者数：1 日平均 90 名 延べ冊数：2500 冊 令和 5 年度に追記した目標についての記載が漏れていましたので記します。 ・ 先輩学生からの学習経験を伝えることは大学主催の日赤就職説明会で 2 期生が在校生に国試対策や就職対策を話す機会を持ちました。 ・ 主体的な国家試験への取り組みについて学生に主体的に計画を立案するように目標シートを配布し、実施評価はアドバイザー教員と学生とで行いました。4 年生看護師模試 7 回実施、保健師模試 5 回実施で、受験率は 100%、看護師模試は、3 年生 3 回、2 年生 2 回、1 年生 1 回で受験率は 100%でした。 ・ 実習指導者との相互理解はそれぞれの実習において事前事後に十分な時間をかけて行われました。新型コロナ感染状況により、全体での協議会の開催は次年度に延期されました。 ・ 和歌山図書館入館者数、貸出数の利用状況 【2023年度和歌山図書館利用状況】 <table><tr><th>入館者数</th><th>【日赤】</th><th>【雄湊】</th><th>合計</th></tr><tr><td>延べ人数</td><td>11877</td><td>12488</td><td>24365</td></tr><tr><td>開館日数</td><td>267</td><td>265</td><td>266</td></tr><tr><td>1 日平均延べ人数</td><td>44</td><td>47</td><td>92</td></tr></table> 資料貸出延べ人数 <table><tr><td>学部学生/院生/助産</td><td>1748</td><td>1207</td><td>2955</td></tr><tr><td>教員</td><td>192</td><td>164</td><td>356</td></tr><tr><td>職員</td><td>98</td><td>64</td><td>162</td></tr><tr><td>学外者〔本学卒業生等〕</td><td>22</td><td>4</td><td>26</td></tr><tr><td>合計</td><td>2060</td><td>1439</td><td>3499</td></tr></table>	入館者数	【日赤】	【雄湊】	合計	延べ人数	11877	12488	24365	開館日数	267	265	266	1 日平均延べ人数	44	47	92	学部学生/院生/助産	1748	1207	2955	教員	192	164	356	職員	98	64	162	学外者〔本学卒業生等〕	22	4	26	合計	2060	1439	3499
入館者数	【日赤】	【雄湊】	合計																																		
延べ人数	11877	12488	24365																																		
開館日数	267	265	266																																		
1 日平均延べ人数	44	47	92																																		
学部学生/院生/助産	1748	1207	2955																																		
教員	192	164	356																																		
職員	98	64	162																																		
学外者〔本学卒業生等〕	22	4	26																																		
合計	2060	1439	3499																																		

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
15. 【計画 16-3】(33 頁) 同一の海外研修において、事前のリモート研修と現地での対面研修によるハイブリッド研修を行うと効果が一層上がると思います。お考えをお聞かせください。 16. 【計画 16-4】(34 頁) 「学修過程・成果の可視化」に関して、どのような手法を活用されるのかを具体的にお教えください。	・卒業生のための支援として、和歌山実践研究センターの就職前研修（【計画 9】に記載）と、進路に関する相談窓口「きらり」を卒業生も活用できるように卒業時に申し込み方法を伝えました。現時点で利用者はいません。 【16-2】(33 頁) 評価指標 ボランティア参加人数 赤十字奉仕団 35 名 ボランティア活動延べ人数 200 名 【和歌山看護学部看護学科 回答】 2 回の海外研修は、大学主導で実施されました。オーストラリア研修は事前のリモート研修のうえ、現地での研修でした。今回の参加学生は海外に行くこと自体が初めてでしたので、ご提案のハイブリッド研修は学生にとって必要であり、効果的な研修と思います。 【和歌山看護学部看護学科 回答】 2023 年度までは学修履歴・活動履歴等一部の様式が LMS 上で記録・蓄積されており、一部年次毎の学修目標と評価については紙ベースで実施していました。 2024 年度より LMS (WebClass) を用いた学修ポートフォリオのシステムを本格導入しました。2024 年度は、学生が全て Web 上で、DP の達成度、年次毎の学修の目標及び評価、卒業時の技術到達度チェックリスト、各授業科目での目標に対する到達度評価を入力することで、学修履歴・活動履歴を体系的に蓄積・収集できるシステムを構築・運用しています。 2024 年 4 月にポートフォリオ稼働に際し、教務ガイダンス内で教職員ならびに学生に説明しました。学修ポートフォリオに蓄積された情報やディプロマ・

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
17. 医療保健学研究科の評価指標について、具体的数字が欲しいです。 18. 【計画 17-2】（35 頁）「評価指標、FD 活動による教育システムなどの開発状況」について具体的にお教えてください。	サプリメントを、学生自身が就職先等の社会に向けて提供できることを説明しています。 【大学院医療保健学研究科 回答】 2007 年度から 2023 年度までの 15 年間で、383 名に修士の学位を、博士課程 2009 年度から 2023 年度まで、35 名に博士の学位を授与しています。教育目標に沿った成果は、学位授与率、就職率が客観的な指標とできますが、現在、学生の学習成果を測定するための評価指標は整備されていないと言っていい状況ですので、大学院に入試・広報委員会、教務委員会を設置し、委員会活動を通じて整備していく予定です。大学院研究科の教育成果は、学位取得者数のほか、個々の大学院生の学会誌への投稿論文数や学会での研究発表の回数などが、評価の客観的な指標になり得るので、研究科教学マネジメントのチェック項目に実態は把握して記載しているものもありますが、海外発表は 1～2 例などと少ない状況です。 【大学院医療保健学研究科 回答】 アセスメントポリシー評価指標として、①AP に関する評価（入学段階）は、各種入学試験、研究予定テーマに関する記載、②CP に関する評価（在学中）は、単位履修状況、休学者数、退学者数、授業評価アンケート、授業科目ごとの学修達成度セルフチェック、研究進捗報告会（中間と年度末 2 回）、DP に関する評価（卒業段階）は、修士課程（修士論文・修了時アンケート）、博士課程（研究計画審査、倫理審査、博士論文、博士論文審査）、前期・後期の授業アンケート評価を実施していますが、5 段階評価による科目ごとの評価点、自由記載が院生から出されています。ほぼ評価点 4 点以上をえています、科目によっては評価点が低いものもあります。それに対する評価として、科目担当

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
19. 【計画 17-5】(37 頁) ①「評価指標、科研費獲得に向けた取組状況」とは具体的に何を指していますか、お教えてください。 ②競争的資金獲得推進のための組織作りについて具体的に教えてください。	責任者による評価・授業の工夫・今後の課題などを学科長に提出、学科長による考察がされ、それを院生に公表をしています。これらを活用して次年度の授業の質の向上を図っており、例年、授業の工夫を図り、次年度は成果として評価点の向上がみられています。 FD 活動による教育システムなどの開発状況について これまでは大学医療保健学部 FD 委員会と合同で FD 活動を実施していましたが、2023 年度より大学院 FD 委員会を設置しています。委員会としては教員活動だけでなく、学生中心の教育活動が実施できるように卒業生への大学院教育に関するアンケートを実施しています。結果として、オンライン授業について講義、研究指導それぞれ良さを生かしながら教育が行われたことが確認されました。 【大学院医療保健学研究科 回答】 ①評価指標は委員会を通して整備中ですが、科研費については、研究支援部を通して外部講師を招聘して獲得に関する研修会を教職員、大学院生を対象として開催しています。研究倫理に関する研修会は全員参加していますが、科研費獲得に向けた研修の大学院生の参加率は数名と低いので今後は検討していきたいと考えます。 【研究協力部 回答】 ②研究協力部では科研費等外部資金獲得推進のため、まずは科研費説明会の参加者増、科研費申請書の個別支援など今後さらなる研究活動の活性化を推進することが重要と考えております。また、総合研究所の活動については外部資金の獲得を前提にしており、産学連携も含めた研究推進及び研究成果のアウトリーチを目的としたシンポジウムの開催等も行っております。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
20. 【計画 17-6】(37 頁) 施設環境の充実のための計画は、どのような手順で策定されるのですか？年度計画、中長期計画などがあるかと思しますので教えてください。 21. 【計画 17-7】(37 頁)「課程の入学者に関しては、研究遂行の能力の査定が必要であることが確認された」と記載されていますが、現行の大学院入試（選抜）ではどのようにして研究遂行の能力を計っていらっしゃるのですか？	【大学院医療保健学研究科 回答】 大学全体の構想計画との関係がありますが、院生の学習環境としての院生専用の学習室やロッカーの確保、図書館や Web 検索の充実など図っております。 【総務人事部 回答】 「東京医療保健大学の環境整備計画に関する実施計画」を作成し、整備の目標、中期展望（整備の方針）、年度計画を定めています。本計画は、各学部等の要望を反映し、学部長会議及び大学経営会議において審議され決定されます。 【大学院医療保健学研究科 回答】 修士課程では、これまでの論文の内容や入学後に研究したいことの研究計画、博士課程は修士論文の内容を注視しております。 社会人対象の大学院ですので、看護師、助産師、保健師又は養護教諭の資格を有し、これらの実務歴がある者又は現在、実務を行っている者に対して行います。一般選抜で実施される試験と併せて「面接」において、経歴及び研究計画書に基づき、看護に関する知識・技能・理解力を確認し、思考力・判断力・表現力を評価すると共に入学後の研究意欲を有しているかを評価します。専門領域別試験で、看護学分野に関する筆記若しくは口頭試験を実施し、その基礎的知識・理解力の評価、看護学の探求に必要な能力である論理的・科学的思考の資質に関する評価、修学及び研究遂行に必要な思考力・判断力・表現力を評価しています。試験だけでなく面接でも、志望動機や研究に関する志向性を確認し、関心のある看護現象に対する基本的な知識及び自己の考えを適切に説明できる表現力、人々の健康問題に取り組む思考力・判断力・表現力と探求心・意欲・態度を評価します。また、看護職としての高い倫理観や豊かな人間性と看護職の社会的責任を説明できる能力なども面接で評価しております。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
22. 【計画 17-8】（38 頁）令和 4 年度実績と令和 5 年度計画達成状況の記載が同一です、奇異に感じます。	【大学院医療保健学研究科 回答】 重複していましたので、下記のように修正いたします。 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図るために、1. 修了生との交流活性化によるPR効果の促進では、研究ゼミへの参加、大学院公開講座をなどによる交流の場を開催し、開催テーマに関する学びだけでなく、キャリアアップ後の修了生をロールモデルとしての学びも得られています。 2. 産学協同研究成果の対外的なPR促進として、研究ポスターの掲示やFD研修での報告、外部講師を招いての講演会などが実施され、学びとなっています。3. 地域社会との連携によるPR促進・ブランド力向上プロジェクトの推進状況としては、産後ケア研究センターや高齢者向け健康大学など、地域社会との連携の実際の場における結果・評価よりPR促進、教育効果も得られてきています。
23. 千葉看護学研究科の評価指標について、具体的数字を入れてください。	【大学院千葉看護学研究科 回答】 【19-1】及び【19-2】の達成状況の記載がわかりにくいとの指摘だと受け止めました。評価指標に関する数は、下記となりますので、追記したいと思います。 【19-1】 地域交流イベントでの企画数：研究科学生による演習成果発表会 1 件 参加住民からの肯定的な意見：来場者アンケート結果で、本件については、満足したとの回答が 5 件のうち 3 件でした。 学生からの肯定的な意見：参加大学院生は 12 名で、有意義だったとの感想の他、聴衆が多様であったが地域住民を対象とするにはさらに工夫が必要である、等が聞かれました。 活動報告公開数：1 件（演習成果発表会） 【19-2】 ・修士論文での学会発表数：4 件（修了 5 名中）

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
24. 【計画 19-5】(41 頁) 地域連携に関する共同研究のテーマに関して既に地域との間で話し合いは実施されていらっしゃるでしょうか？ 25. 和歌山看護学研究科の評価指標について、具体的数字が欲しいです。 26. 【計画 20-1】(42 頁) ハイブリッド受講環境を整備し教職学生が活用され機能していることは大変好ましいです。大学院担当教員数は、充足していますか？	【大学院千葉看護学研究科 回答】 現時点では地域連携に関する共同研究は未実施です。令和 6 年度はまず、「看護機能推進演習」において地域におけるフィールドワークを実施する予定としていますが、こういった機関からこういったデータを収集するかも含め学修と考えており、事前の調整は行っておりません。令和 6 年度のフィールドワークを共同研究に発展させることができるかどうかを検討していきたいと考えております。 【大学院和歌山看護学研究科 回答】 【20-1】42 頁 数値目標 担当教員数：指導教授 6 名、副指導教員 8 名 科目履修生：2 名 【20-3】43 頁 数値目標 研究生：2 名 研究成果の発表 8、投稿数 3 【大学院和歌山看護学研究科 回答】 ハイブリッド受講環境が定着し、学生たちも適応でき、トラブルへの対処も素早くできています。学生たちも、自由に選べるために、ストレスなく学べているように思います。 大学院担当教員数は、講師以上は科目の一部担当するなど、大学院教育のための能力向上を図っております。修士論文指導教授は 8 名、副指導教員には准教授 7 名を配置しています。しかし、博士の学位を取得のために学んでいる教員も含まれます。大学教育においても経験年数の浅い教員もいるのが和歌山の特徴で、教育の質の保証のための教員の FD、また自己研鑽が必要と思っています。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
27. 助産学専攻科について、評価指標が具体性に乏しいように感じます。 28. 【計画 21-2】(43 頁)「主体的な学修を促す教育方法」とはどのような手法かを具体的にお教えてください。	【助産学専攻科 回答】 毎年、授業評価(講義・実習)を科目ごと実施、また、卒業時到達度自己評価(到達レベル別)を実施し、評点 4 以上の高評価を得られています。さらに、卒業時教育活動評価の結果、学生は過密なカリキュラムに対する負担感などの思いはありますが、その必要性を理解して、分娩介助実習、育児クラス等の保健指導、受胎調節実地指導、NCPR 研修等を通して、分娩介助実習時の評価・卒業時の到達目標等の評価得点から、学習の必要性や学習の積み重ねができています。教員は学生に専門職としての成長と、模擬試験や対策講義の点数評価等を返しながら、国家試験の合格につなげるように支援しています。 【助産学専攻科 回答】 教育の質的転換のための一つの方策としてのアクティブ・ラーニングを取り入れています。教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称とされていますが、具体的には「発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習などや、学内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等によって、通常の授業においても一部の体験学習を取り入れ、主体性の育成を図っています。それには教員から学生への働きかけとそれに対応して、学生が状況に関与してくる度合を徐々に高める相互形成的な指導を持続的に展開できるように、領域内での学習や検討会などを定期的に行ってブラッシュアップをしています。学生からのアンケート授業評価などからも高評価を得ています。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
29. 【計画 21-3】（44 頁）実習施設への就職率 40%とありますが、これは目指している数字ですか？	【助産学専攻科 回答】 分娩介助実習など、実習受け入れの状況により、就職先として学生が自ら選択して、この病院であったら就職したいと思っの現状の数値です。
30. 【計画 21-4】（44 頁）研究レベル向上の為の大学教育プログラムの 2 と 4 について具体的にお教えてください。	【助産学専攻科 回答】 2. 当学首都圏（和歌山看護学部を除く、五反田、千葉、東が丘、立川キャンパス）の各キャンパスからの助産学専攻科への進学希望者が多く、内部推薦入学制度を設置し、一部の入学生ではあるが、学部から助産学専攻科への進学制度として一貫教育が図られつつある。 3. 4. 他大学の研究室、地域行政や訪問看護ステーションなど、産学・地域連携による共同研究の推進を図ることで、研究フィールドの確保、質の高い外部研究者との交流などにより、当学の教員や大学院生（特に博士課程）など、国際会議発表の推進に導けるように取り組んでいる。
31. 【計画 21-6】（45 頁）キャンパス空間の整備状況を評価指標に掲げていらっしゃるいますが、何をどう整備するのか具体的にお教えてください。	【助産学専攻科 回答】 学習環境としての教材の充実、教室の空間（広さ）、湿気やカビなどの空調、学生のロッカーや自習空間等のアメニティの充実を図るために、学生からの意見を評価として取り入れています。そこで、意見が出ている課題について、大学側との問題共有を図り、新規設置や修理、教室の確保（大学外の施設の借用及び活用）など、小グループでの演習問題解決を継続的に図っています。
32. 【計画 22-1】（45 頁）南海トラフ地震を踏まえた BCP は策定されていますか？	【和歌山助産学専攻科 回答】 南海トラフ地震を踏まえた BCP は和歌山看護学部・研究科もあわせて考えていかなければならないことと思っております。 全体計画は策定できていません。ただ、昨年度より雄湊キャンパス、日赤和歌

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
33. 【計画 25-1】(49 頁) について、3 つの研究ユニット立ち上げにより研究活動の推進を図ることは素晴らしいことと思います。一方「全ての学部、学科の教員が関与する形」と書かれており、教員へのオーバーロードを懸念します。オーバーロードとならない工夫について教えてください。 34. 教育の質保証、教学マネジメントチェックリスト、レベルごとのアセスメントプランに基づく評価と PDCA サイクルを回し、改善を図っている様子を高く評価致します。	山医療センターキャンパスにおいて、コロナ禍で見合わせていた避難訓練を再開、実施しています。また、学部の学生生活委員会災害 WG において、震災等災害対応マニュアルの作成に着手し、現在内容の確認を行っています。災害用備蓄の準備や避難経路の徹底等についても各キャンパスで準備、対応を進めています。 【総合研究所 回答】 総合研究所の活動が充実することに伴い、一部の教員に負担が偏る状況が生じていることは事実です。総合研究所の活動は外部資金の獲得を前提にしていますので、パイアウト制度の活用など負荷軽減策の柔軟な運用を検討してまいります。 【企画部 回答】 ・【計画 2】及び【計画 26】に基づき、本学の教育の質保証の観点から、また、令和 7 年度には大学基準協会の認証評価を受審することから、文科省が定めた「教学マネジメント指針」を踏まえた本学独自の「教学マネジメントチェックリスト及び「アセスメントプラン」を策定し、令和 5 年度 of 取組から、「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」毎に点検・評価を実施したところです。 ・点検・評価の結果、概ね「チェックリスト」等に準拠した取組が実施できていましたが、いくつか課題点も見受けられたので、学長からの指摘事項については、各学部・研究科等に対し、年度内までに点検・改善等の実施を行うこととしています。【別添資料をご確認ください。】

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
35. 急速に進む少子化、18 歳人口の減少の時代にあって、優秀な志願者の確保は重要なテーマです。高大接続、指定校推薦を含めた選抜の在り方、社会人を対象とした、リスキリング、アップスキリング、社会人学び直しのための履修証明プログラム（マイクロクレデンシャル）へのお考えをお聞かせください。	【入試事務部 回答】 志願者確保については、医療栄養学科、医療情報学科はもとより、各学部の看護学科についても喫緊の課題ととらえているところです。この志願者獲得競争に勝ち残っていくためには、本学への関心・志望度が高い受験生を確保することが重要と考え、学生募集活動の一環として行う、年間 500 校にものぼる高等学校への訪問や説明会により、本学の強みである提携病院との連携や学修環境の充実さ、各学部の学びの特色を丁寧に説明することにより、高校生の関心を高め、本学を志願先として検討させる取組を行っています。また、高大接続を強化するため各高校の進路指導の目的を踏まえながら、高校側のニーズに合った独自の出張講義を提案、実施を行っております。指定校についても、規程による指定校とは別に、毎年、特定の高等学校に高大連携協力型指定校として指定校枠を付与して学生の確保に努めています。 【大学院医療保健学研究科 回答】 従来の概念ではリカレント教育は離職を前提として捉えていましたが、離職を前提とする個人主体の学び直しをリカレント、組織主体の学びを含む同一企業に留まることを前提とした学び直しをリスキリングとして、両者を含むものをリカレント教育と捉えとします。大学院としては学位取得を目指す単位履修、研究者養成的な考え方が中心としてきましたが、院生が就職する企業・産業界の現状を踏まえると履修制度の改善、（短期）履修プログラム制度、大学院修了生のキャリア支援など、課題を検討する必要性があると考えております。難問は教育の質の担保であると考えておりますので留意して検討して参ります。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
36. 「社会における知識の共通基盤」としての存在である大学と大学院の使命・役割は、人材育成と研究成果の社会還元を通して社会に貢献することであろうと思います。教員は学生への教育に多くの時間と労力が割かれ自らの研究活動に十分な時間が取れない状況にあるのではないかと危惧されます。一方教育と研究は両輪です。最新の研究を教育に取り入れることで学生の好奇心に火を点ける、学生との討論を通じて自らの研究のヒントに繋がることもあろうかと思ひます。 限られた時間と資源の中で、大学と大学院における「研究力と教育力	【大学院看護学研究科 回答】 看護学研究科においては、高度実践看護コース、高度実践助産コース、高度実践公衆衛生看護コースと看護教育、看護管理、助産師の研究主体のコースの6種類のコースが設置され、働きながら学べるようになっています。学部卒業生が学べる場としてリカレント教育として卒業前にガイドしていることと、実習施設へのPR活動により、大学院の説明会や個別相談会には希望者が殺到している状況です。定員に対しては常に満員で推移しており、期限の範囲で修了しています。（令和5年度定員充足率106%、修了年限での修了率94%、令和6年度は在籍78名/定員充足率108%） 【大学院和歌山看護学研究科 回答】 リスクニングは認定看護管理者受験資格が得られ、認定看護管理者資格を得ることとで管理者としての昇進につながります。 アップスキリングは、研究能力の育成により、職場での実践や教育・マネジメントの課題を分析し、スキルアップが可能です。本研究科は高度な実践能力をもつ人材の養成を主軸にしているために、職場に直結した課題に学生は取り組んでいます。 【医療保健学部看護学科 回答】 限られた時間と資源の中で、大学と大学院における「研究力と教育力を共に一層向上させるための工夫と悩み」は、ご指摘としては最も重要な点と考えます。大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的として設置されてきておりますが（学校教育法第99条）、主に知識基盤の充実に力点がおかれ研究の場として発展してきています。修士・博士前期課程に入学者は、研究者や高度実践家だけでなく、教育

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
を共に一層向上させるための工夫と悩み」についてお聞かせください。	職を目指している院生もいます、修士・前期課程修了者が教育職に就く現状を考えると、「教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」の育成を意識した教育内容を検討する必要性もあると考えます。さらに、当大学院ではどのような人材を養成したいのか、その目的を明確にし、研究、臨床、教育の能力のバランスに配慮した教育を検討して参ります。 【医療保健学部医療栄養学科 回答】 近年、志願者増のための広報活動強化、教学マネジメント対応など、大学運営業務が増加しています。また、学生の基礎学力低下や管理栄養士国家試験合格率低下に対する対策も強化しており、教育に割く時間も増加しています。そのため、その分研究に割く時間が削られているのが現状です。このような状況下、限界はありますが、若手教員に対し研究支援等に関する個別相談会の開催や学科特別研究費の若手分配率を学科の数値目標にするなど若手教員の研究を支援する試みを行っています。また、卒業研究を通じた研究活性化のために、卒業研究の学生への案内を早期化するなど、卒業研究を選択する学生を増やす試みも行っています。 【医療保健学部医療情報学科 回答】 情報学は極めて変化が激しい分野であり、研究活動や社会活動を疎かにすると、教育内容も急速に陳腐化してしまいます。2023年度カリキュラムからは、選択科目の割合を卒業までに取得すべき単位の半数程度に増やし、1年次からゼミを導入するなど学生と密に接する機会を増やし、教育における学生と教員との信頼関係を築きつつ、興味や特性を活かす教育、AI、VRなどの情報学の進歩を実践的に授業に取り入れた教育を行なっております。また、卒業研究やゼミを重要視し、教員との共同研究の成果を学会発表するようにしています。本年度は、卒業研究の履修者が3倍になりました（7名から21名）。教員の研究面においても、テレワークの推進等を通じて、他大学、医療機関との共同研

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
	究を行ないやすい体制造りをしています。 【東が丘看護学部・大学院看護学研究科 回答】 看護学研究科においては、人材育成型の高度実践コースと研究志向型の研究コースを設置しています。どのコースも中間で計画発表会を実施し、其処で実践家と研究者の議論を学生を前にして意図的に実施しており、とても良い教育研究の恵まれた環境になっています。入学時と比較するとすっかり理論的に討議でき、積極的に発言出来る学生を目のあたりにし、将来頼もしい限りです。 ここまで成長していれば上司からつぶされたりはしないと安心もするし、少し年を重ねた上司がもっと教育を受けて上に立つべきと考えます。研究力は教育だけでは身につかない部分であり、実践の中で研究力をどうつければ良いかが課題で、そこがジレンマかも知れないと考えています。 【千葉看護学部・大学院千葉看護学研究科 回答】 千葉看護学部、千葉看護学研究科では、領域責任者のもと、教育・研究・社会活動を含め、ワークライフバランスを考慮した教員のキャリア開発を行っており、適宜、学部長・研究科長と調整しています。特に、准教授・講師・助教・助手の学部及び大学院における担当科目については、各教員の研究活動とマッチングするように工夫し、授業等において研究成果を活用できるようにしています。また、教員が、社会人で博士前期・後期課程に通う調整もしています。ただし、開講後完成年度前に、COVID-19 となり、「臨地実習」の実施においては、教員が臨地に実際に滞在して対応する時間を多く必要とし、研究時間の捻出は大変困難でした。しかし、次第に、臨地受け入れ先と信頼関係が構築されつつあり、非常勤実習助手の雇用を積極的に活用するようにし、教員の研究時間を確保する工夫を開始しています。また、学部では4年次実習の「看護研究」で、研究科では、「特別研究」で、指導教員ごとあるいは、領域ごとにゼミナ

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
	ールを開き、「地域医療に強い人材」となることを目指している学生、大学院生との討論を通して、地域包括ケア時代の不可欠な研究課題を発見し、触発されており、教育と研究と社会活動が徐々にリンクしてきていると考えております。 【和歌山看護学部・大学院和歌山看護学研究科 回答】 研究能力の高いベテラン教員との共同、あるいは共通の教育課題を持つ領域横断の共同研究、領域内の教員での共同研究などで研究力向上を図りたいと呼びかけます。しかし、日々の教育に多くの時間と労力を費やしており、時間的に余裕がないようです。複数の領域において、教育実践を研究として取り上げることで教育・研究力向上につなげています。また、博士課程で学んでいる教員が多い（約15名）ために、学生として研究に取り組んでいます。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
【山本委員】 1. 【計画 11-2】（13 頁）卒後教育も重要とは思われますが、優先順位としてはまず在籍中の学生への働きかけを検討してはいかがでしょうか。 2. 【計画 11-5】（15 頁）第 4 章 教育課程・学習効果に関する計画でしょうか。 3. 【計画 12-3】（17 頁）誰の投稿でしょうか。（学部生・大学院生・教員？） 4. 【計画 13-2】（18 頁）ボランティア活動は、同じ学生が 4 年間実践している可能性を考えると、学生のうち活動しているのは 4 分の 1 かもしれません。	【医療保健学部医療栄養学科 回答】 医療栄養学科では、【計画 11-6】教育の質向上や【計画 11-7】リメディアル教育の充実など、在籍中の学生に対する取組の優先度を高く考え、重点的に取り組んでいます。一方、卒業生の満足度向上も、学科の価値を高め、志願者増につながる活動であると考え、【計画 11-2】卒後教育を可能な範囲で継続しています。 【医療保健学部医療栄養学科 回答】 多少違和感があるかもしれませんが、本計画は、世間から注目されている研究であり、医療栄養学科において複数の教員が携わっています。そのため、研究成果の教育への活用といった点で一定の貢献があることや、他の分類に適切なものがないことから、教育課程・学習効果の中に入れていきます。 【医療保健学部医療情報学科 回答】 論文については教員の投稿でしたが、学部生による国際学会での学会発表実績もありますので、学部生の投稿も支援していきたいと考えています。 【東が丘看護学部看護学科 回答】 ボランティア活動は、目黒区との連携協定、NH0 との連携協定を結んでいるため、目黒区関連では消防団活動で 170 名程度、桜まつり・さんま祭り、小児を対象としたアロマ石鹸づくり年 2 回、高齢者施設でのアロママッサージ、東京医療センター関連では災害訓練活動 100 名強、演奏会年 2 回、七夕短冊飾りなど少人数イベント含め、大勢の学生が喜んで真剣に参加しています。 自分たちの体験を通して学ぶ機会も多いことに気づいており、とても良い取組

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
5. 【計画 14-2】(20 頁) ホームカミングデイの開催は良いと思いますが参加者数を伸ばすことが課題だと思います。在学中から周知してはいかがでしょうか。 6. 【計画 14-3】(21 頁) ボランティア活動が「学生支援充実」にあたるか、疑問がありました。	と捉えています。授業や実習との関連から、消防団活動は 1, 2 年次生中心、災害訓練活動は 2 年次生が中心となっており、経年で確実に入れ替わりが発生するためかなりの数の学生が一度はボランティア活動に参加していると言えます。量的には 4 分の 1 というのではなく、少なく見積もっても 2 分の 1 以上はある状況です。 【立川看護学部看護学科 回答】 当学部でも同様に問題認識しており、参加者数増に向けた検討を始めているところです。 例えば、上級生による下級生の演習支援、卒業生である先輩看護師による実践論の演習支援、卒業生による就職説明会における上下学年交流による関係性の構築、先輩の役割認識とともに愛校心をはぐくむなど種々の活動の中で、ホームカミングデイの意義を教員から伝え周知を図ることなどにより、参加者数の増につなげていくことを考えております。 【立川看護学部看護学科 回答】 学生のボランティア活動はあくまでも自主的なものではありませんが、看護や地域防災の取組に関するボランティア活動に関しては、災害看護という本学部の特長を背景に積極的な取組を奨励しており、また、学生が自主的・自律的に入手できる情報が限定される傾向にあります。 このため、本学部と立川市との連携、日赤や地域との連携を通じた取組の一環として、本学部事務が窓口となり、立川市や関係団体からのボランティア活動に関する情報提供に加えて、ボランティア活動の参考となる活動の周知など関連サポートしており、「学生に対する支援充実」に含めております。 また、学生に対する情報支援が充実していることを確認するための評価指標と

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
7. 【計画 15-1 (2)】(26 頁) 評価指標をもう少し specific に設定してはいかがでしょうか。 8. 【計画 15-4 2.】(29 頁) 推薦入学学生が学習計画作成を途中でやめた理由は何でしょうか。 9. 【計画 15-5 1.】(30 頁) 生涯学習支援は卒後だけにするものでしょうか。学部教育の教育課程・学習成果を評価する指標としては、在学生への活動を掲載するとよいのではないかと思います。	して、各種ボランティアへの参加状況を設定しているところです。 【計画 15-1 (2)】は、千葉看護学部開講時より、学生が早期から看護職としての意識を高められるようにする授業内外でのプログラムを実施したいと計画したもので、COVID-19 下で学生ボランティアなども機会がなく、現在の評価指標としました。今後、より具体的な評価指標を検討していきます。 【千葉看護学部看護学科 回答】 推薦入学学生に対しては、入学前準備プログラムの実施と効果などについてアンケート調査を実施しています。その中では学習計画作成を途中でやめた理由は聴取しておりませんので明確にはわかりませんが、当該プログラムを受講して感じた意義等に関する回答を分析し、プログラムの改善を検討していきます。 【千葉看護学部看護学科 回答】 看護専門職として生涯にわたる学習を支援するという視点で、在学生への活動を評価することはしておりませんでした。機能看護学を始め、多く科目で重要視している視点と考えておりますので、今後、各科目から実態を収集し評価したいと考えます。現段階では、これまで実施しておりませんでした 1 回生、2 回生と卒業したばかりの学生を対象にしたプログラムを新規に計画いたしました。これを在学時からの生涯学習支援とつなげて全体像を整理していきたいと考えます。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
10. 【計画 15-6】(32 頁) 学会発表・論文発表の成果は評価できますが、これは第 4 章に入れるものでしょうか？ 11. 【計画 20-1】(42 頁) 修士論文審査・論文投稿への積極的な取組が評価できます。 12. いずれの学科・専攻も、中期計画に基づき熱心に取り組んでおられると思います。 栄養学科の評価指標が、教育課程・学習成果に関するものになっているか、やや疑問に感じました。	【千葉看護学部看護学科 回答】 教員の研究力を高めることは、研究活動によって得られるタイムリーでアカデミックな教育活動に反映するために必須のことと考えました。ただしご指摘のように、第 4 章にふさわしいように教育活動に反映できたかどうかを評価しておりしておりませんでしたので、今後は、その視点で評価できるよう実態を収集していきたいと考えます。 【大学院和歌山看護学研究科 回答】 指導を担当した教員が修士生に引き続き支援しています。2024 年度から研究生制度を設け、研究生が大学で文献検索等もできるように環境の整備をしました。2024 年度は 2 名が研究生として登録しています。引き続き、支援を進めたいと思います。 【医療保健学部医療栄養学科 回答】 医療栄養学科では、中期計画策定時のテーマが十分整理されていなかったため、令和 4 年度の点検評価実施時、令和 5 年以降の計画を整理し直しました。結果として、現在、教育課程・学習成果の分類の中で進めている計画は【計画 11-2】、【計画 11-5】、【計画 11-6】、【計画 11-7】になります。それらの評価指標の大部分は成果指標ではなく、活動指標になっています。そのため、第三者から見た時に、それらの評価指標が教育課程・学習成果に関するものなのか、分かり難いのかかもしれません。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
13. 【計画 32】（57 頁）いずれのキャンパスでも国際交流活動に積極的に取り組んでおられる様子が窺われます。記載事項に重複があるようなので整理してはと思います。 14. 【計画 35-4】（61 頁）参加者の人数を報告していただけるとよいと思います。 15. 【計画 54】（82 頁）科研の申請に取り組んでおられて素晴らしいです。採択率はまだ低いですが、まずは申請数を増やすことで採択数も上がり、経験値とともに採択率が上がると思います。	【企画部 回答】 【計画 32】では、国際交流センターが主催する海外研修とは別に、学部等において独自に実施する研修等を区分して記載すべきところ、重複がありましたので、次年度以降重複の無いよう対応いたします。 【立川看護学部看護学科 回答】 参加人数につきましては、次のとおりとなっております。 8 月 24 日開催「アロマでせっけんづくり」公開講座 2023 年度／子ども 21 人、保護者 13 人の参加 12 月 16 日開催「悩みってどう聞くの？」公開講座 2023 年度／33 人の参加 【研究協力部 回答】 ご評価ありがとうございます。 採択率につきましては、令和 5 年度は私立大学全体平均を残念ながら下回っております。まずは申請数を増やすため、科研費説明会の参加者増、科研費申請書の個別支援など今後さらなる研究活動の活性化を推進することが重要と考えております。